

~CROSS~

I wish you a bouquet of flowers



Shiro Tokumitsu & Kaoru Hakaze

Ensemble stars

Unofficial fanbook #4

artwork by Jen

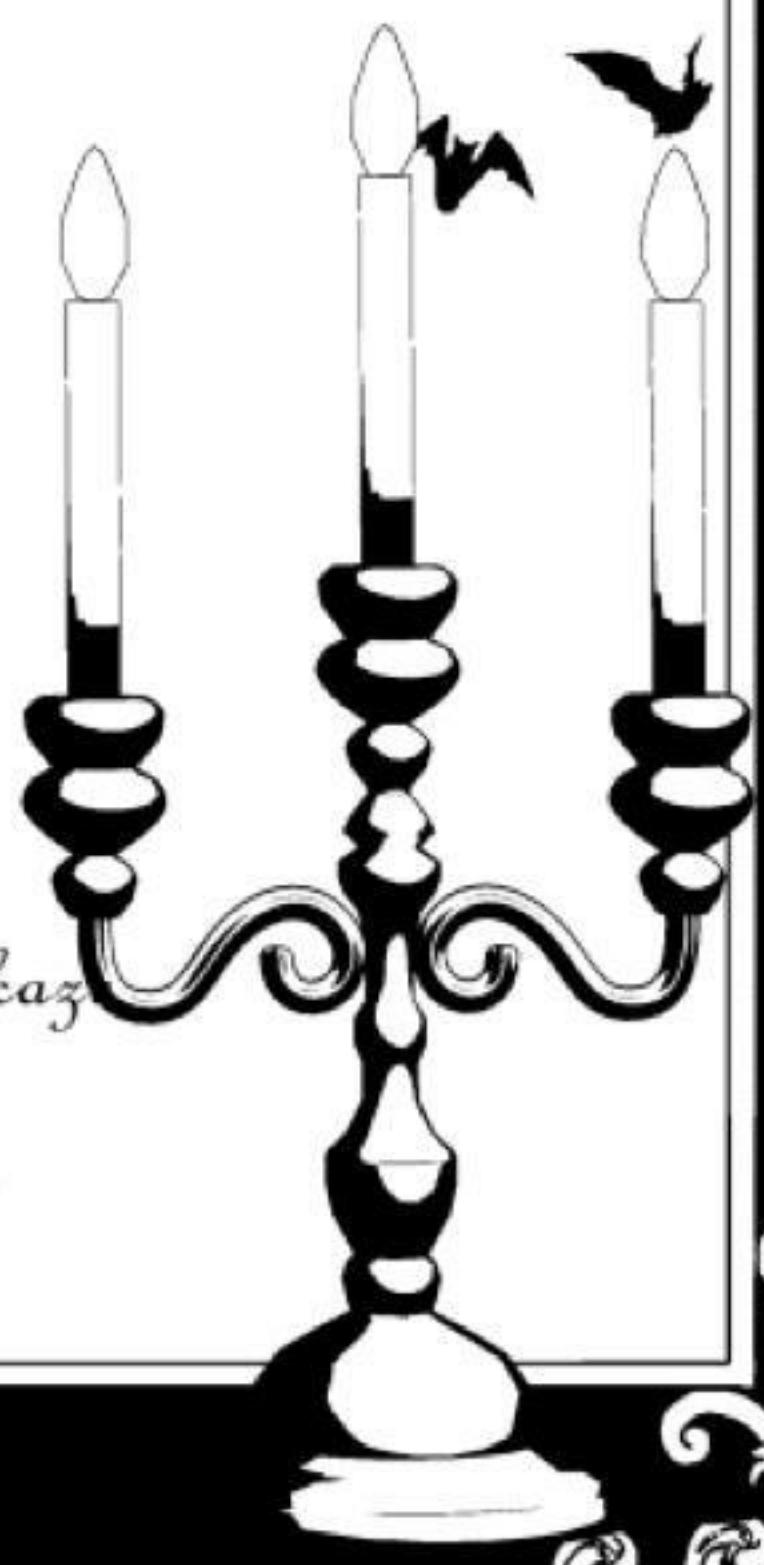
Adult Only



～ CROSS ～

「ユリの花束を君に」

Rei Sakuma x Kaoru Nakaz
Ensemble stars
unofficial fanbook #4
aroma by. Ten



衣装の小道具に
なりそうな本を探しに
図書室へと訪れた

そこで見つけた
一冊の古い本

惹かれて
手の間に
取っていた



なぜだか
懐かしくて
胸が張り裂けそうな
気持ちになる



本の冒頭には
恋人宛ての
手紙のよう
なものが
書かれていた



君が居なくなっても
世界は変わらず廻る

君が居なくなっても世界は変わらず廻る

あんなに恋焦がれ憧れた人間に、私は少しでもなれたらどうか。

少しでも愛しい人間の君に、近づけていたのなら、それでいい。

少しでも愛しい君の為になれたら、それがいい。

『百合の花束を君に』

物語は恐らく
「人」と
「人ではない者」との恋

人間と悪魔でも
愛し合ったのだろうか

だとしたら
それは

あまりにも
辛い恋

I wish you a bouquet of lilies.

I love you even if i'm reborn

Rei

レ……イ

あれ
なんでだろ

おかしいな、
涙が……

薫くん



どうして泣いて
おるんじゃ？

愛しい君へ

君が居なくなっても世界は変わらず廻る。

あんなに恋焦がれ憧れた人間に、
私は少しでもなれたらどうか。

少しでも愛しい人間の君に、
近づけていたのなら、それでいい。

少しでも愛しい君の為になれたら、
それがいい。

『百合の花束を君に』



いい加減に
してよ……

こんなこととして
許されると
思ってるの？

俺を拘束して一体
どうする気？

何が狙いだ



悪魔!!!

このっ



悪いけど生憎
俺は痛みには
強い方だから

あんたの
思うようには
思えないと
思うけどね

ほお、これは
随分と強気の
神父じゃのう

甚振り
甲斐がある



我輩を
楽しませて
おくれよ

おや...、
可哀そうに

人間よ、黙って
しまったのう

怯えて
おるのか?

俺を痛め
つけたいなら
さっさとしなよ

抵抗
せんのか？

恨みを買うのは
慣れてる……

気安く
触らないでよ
ゲロゲロ

ふむさっきから
勘違いしておる
ようじゃが

我輩、
お主の敵で
あろう

いわゆる
魔物の
部類じゃが

悪さをしたり
などはせぬ

信じるか
分らんが
半分は人間故

まあ、
人間まがい
じゃが……

安心おし

悪いようには
せんよ

それに我輩

悪魔ではなく
吸血鬼だしのう





幸か不幸か
我輩が一族最後の
生き残りじゃから
あながち間違っ
おらんかもな

そうじゃの……
ほんの数十年前に
絶滅したとされて

吸血鬼……？
確か絶滅した
はずじゃ……

びっ



は……
納得が……
納得がいったよ

幼い頃に聞いた
ことがある

俺の祖父が
魔物退治で
吸血鬼を
滅ぼしたって

俺の家系に
あんたの一族が
滅ぼされて

生き残りの
あんたは跡継ぎの
俺に復讐しに
来たって訳……

俺だっでなりたくて
神父になった訳じゃないのに



いいよ

それで
気が済むなら

煮るなり
焼くなり
あんたの
好きにしなよ

家族を失った哀しみは
俺も知っている



あくでも
殺さない
程度にしてよ

こんなんでも
神父の俺を
必要とする
人がいるからさ

お主、肝が
据わったのか
怯えとるのか
分らんのか



薫くん

かおる…
そうか…



神父よ
名はなんと
言う？

そんなこと
今
関係ある？

ほんと…
悪趣味だなあ

…薫



痛っ！
え

ちよっ
ちよっと待って
なにする気！
し





こんなこと
したって
何にもならない

それに、



嫌かえ？
嫌だよっ！
まじで
めんど
くさい



解放してやろう

泣きたいのは
こっちのほうなのに

意味分かんない
なんでそんな
悲しい目をするの？



そうじゃな
悪かったのう



薫くんは
我輩が怖く
ないのかえ？



やはり人間は
難解な
生き物じゃな

どういう事？



別に、

怖くなんか
ないよ

俺、神父だし
それに魔物よりも

人間の
怖いとき
だってある



この魔物は
吸血鬼なのに
血が飲めないという

どうりで違和感が
あったと思っただ



中途半端
なんじゃよ

何もかも、が



我輩、
吸血鬼じゃが

血はウエツて
なっっちゃうし



薫くん、
乱暴まがいの
ことをして
すまなかった

じゅ女の

見逃して
くれたこと
感謝する



もしかして
この吸血鬼は



さっきあんた
自分は半分
人間だって
言ったでしょ



あのさっ



確かに
言ったのう。
それが何じゃ

一族を滅ばされて
恨んでるはずなのに
俺には酷いこと
してこなかったよね

それに祖父が
吸血鬼を倒した時も
あんたたちは
やり返さなかった
んじゃないの？

それって
何で？



それは……

昔祖父から
聞いたことがる

何でやり
返さなかったの？

吸血鬼には
弱点が多い



吸血鬼は
かねてより
人間に、

あんた人間に

恋をしてる
んでしよう？

恋を
している、と

だから俺にも
酷いことが
出来なかった
違う？

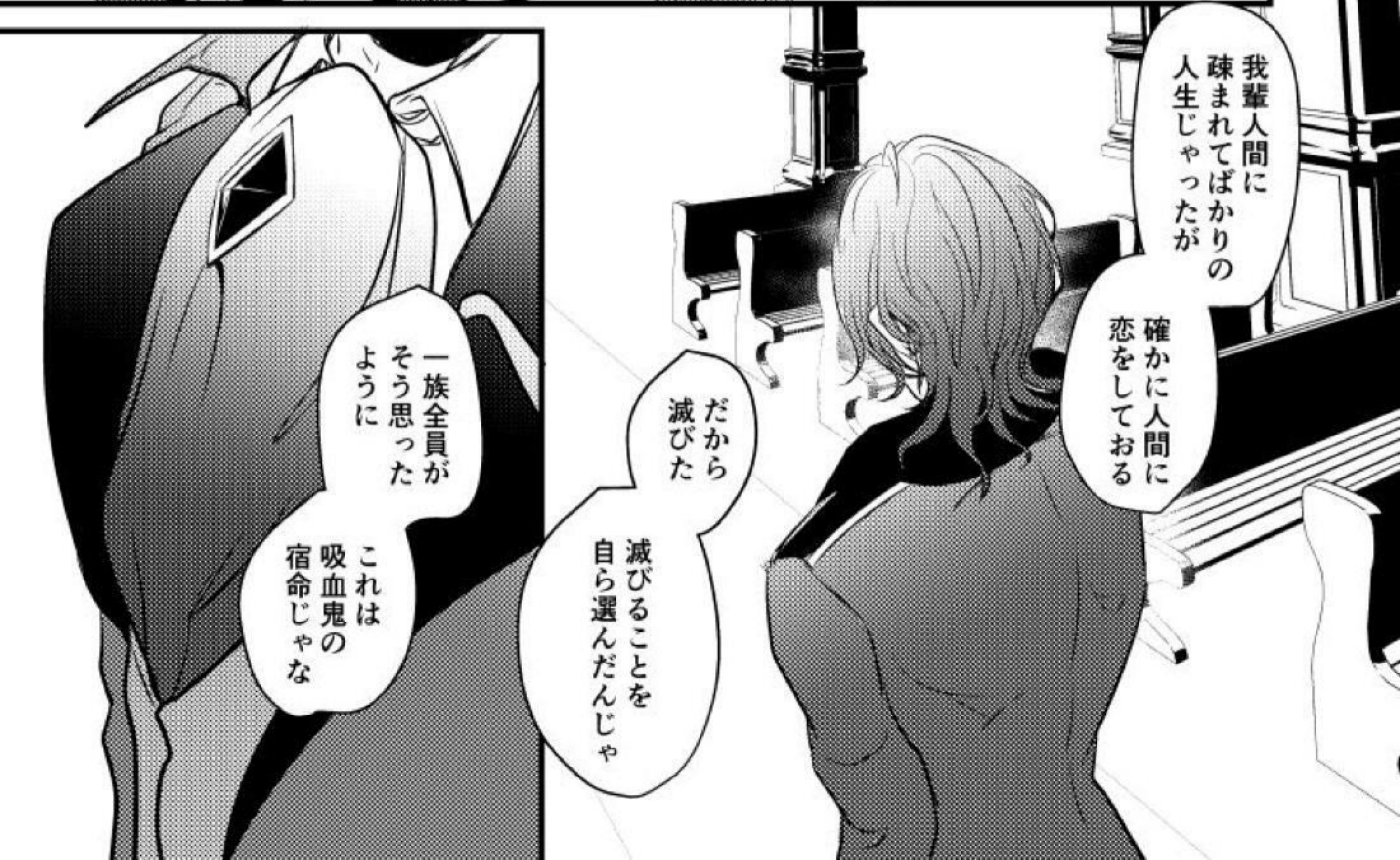


って、
…あれ

昔そんなことを
聞いたことが
あったんだけど
やっぱり迷信かな

あはは…っし

いや…
少し驚いた
だけじゃ



我輩人間に
疎まれてばかりの
人生じゃったが

確かに人間に
恋をしておる

だから
滅びた

滅びることを
自ら選んだんじゃ

一族全員が
そう思った
ように

これは
吸血鬼の
宿命じゃな

我輩も同じ
吸血鬼として
同じ道を選んだ

えっ
それって……

のう
神父様

いや、
薰くん

出逢えて
よかった

えっ？

こんな人間に
もっと早く

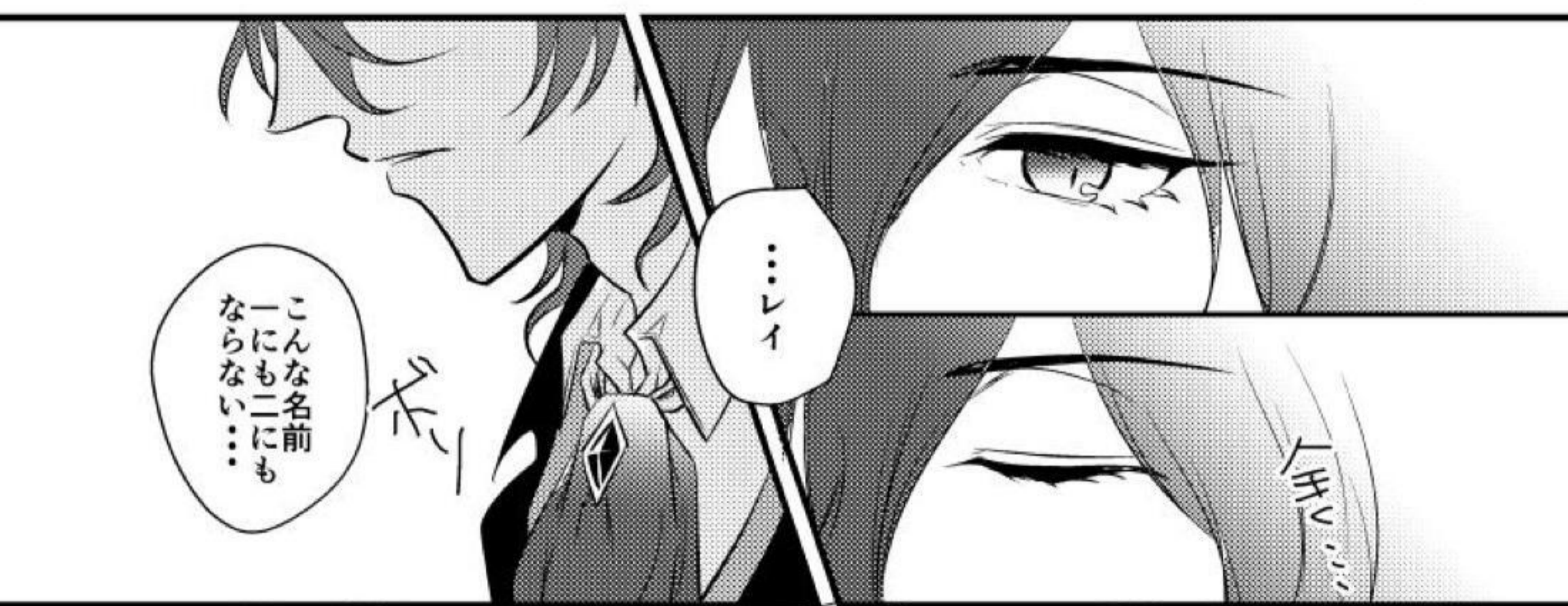
出会えていたら



待ってよ
…あんだ、
名前は？

そんなこと
今更聞いて何に
なるんじゃ

…



こんな名前
一にも二にも
ならない…

…レイ



そっか…

教えてくれて
ありがとう

レイ

へっ



綺麗な音の響きだね

それに
素敵な名前



そんなこと
言われたのは

生まれて
初めてじゃ



あんたを、
レイさんをさ

人間にして
あげようか？

ねえ、
俺が



我輩を人間に？

うーん。正確には

人間のことを教えてあげるってことなんだけど

知りたいんですけど人間のことがもっと

知りたい……



ただ寂しかったんですけどレイさん

寂しい……

俺にも分かるよ



そうか長いこと理解出来なかつたが

この感情は人間の「寂しい」という感情か

知らないことばっかりなんだね

そうじゃな……



理解すると随分と苦しいんじゃないかな



レイさんの中にも
人間の血が少し
流れているんでしょ？

どうだろうか

俺初めて見た時
吸血鬼だっけ
気付かなかった

本当に血が
飲めないんだね



俺、これでも
神父だから
今までの人生
いろんな人間を
見てきたよ

それこそ
悪魔みたい
人間だっけ

人間みたい
悪魔だっけ

壊れた人間も



だからさ、
俺から見たら
レイさんの
のが

よっぽど
人間らしいよ

おかしいな

我輩が
人間らしい……

この人間は
この吸血鬼を
人間らしいだなんて

おかしなことを
言うものだ

レイさんには
感情があるけれど
それが人間で言う
何なのかを自分では
理解していない

これから一人で
人間と共存して
生きていく為には、
必要な感情だから

俺がそれに名前を
つけて教えてあげる

神父の俺には
偶然教会へ
迷い込んだ魔物に、
それくらいのことしか出来ない



ああ、それは人間の真似を試してみたんじゃないよ

昔そんな光景を見たことがあったのう



そう言えばさっきなんであんなことしたの？

悪さをしたいわけではないんだよね？

あんなコ



はああ... そういう事ね

なんだか幸せそうな顔をしておったからそれがどんなものか知りたかったんじゃないや

もー



結局薫くんには嫌がられたがしまったが



ああでもそのあたり前が分からぬんだよね...

うう... すまん



あたり前でしょ？

かま



ああいう事は人間同士お互いに愛し合ってないという意味がない行為だよ

誰彼構わず相手に無理やりするもんじゃやないの

俺は男だ

「さあさあ」

さあさあ



愛し合う？

ううん。分かりやすく言うと好き同士ってこと

恋の延長線上だよ

あ、でもレイさんが言ってる人間に対する恋とは少し違うんだけど

レイさんにもいつかそんな相手が見つかるといいね



愛...

難儀じゃのう...

人間の中でも一番複雑な感情だからね...

まあ、ちよつとずつでいいんじゃない？

こうして俺はこの吸血鬼に人間のことを教えることになった

それから吸血鬼は
お互いの活動が
しやすい真夜中に
頻りに会いに来た

これが神父という
立場上許される
ことではないのは
分かっていただけ

あのとき彼から
感じた「寂しい」
という感情が

昔の自分と
重なってなんだ
か放っておけな
かった

薫くん、
こんばんは

我輩、美味しい
葡萄酒を持って
きたぞい

レイさん、
こんばんは
ありがとう
外、寒かっ
たでしょ

さあ、
どうぞ上
がって

トゲスツム

いっせー
やっせー

おっ
おっ
おっ





んっ、
美味しいね



うん、
今日も正解！

これは「嬉しい」
という感情で
あつておるか？



それは
良かった

いっ
ちゅ
おっ
ぶ
おっ
ごも



そう言っ
てもらえ
ると「嬉
しい」の
う

さすが。早速
覚えたんだね！
習得が早くて
感心するよ

くくく…
照れるのう



薫くんと一緒に
食事をすると

なんだか
いつもより
美味しく
感じるんじや

いっ
ちゅ
らん

そうだね。
俺もそう思うよ

レイさん
のお話
も「面白
い」「し
楽しい」

会う度にいろんな
人間の感情を教えた

感情を教えて
もらった対価に
今日は我輩が
氷の地へ行つた
時の話をしよう

あはは
それは絶対寒くて
レイさん全然
動けなかつた
やつでしょ!

何で先にオチを
言っちゃうんじゃ

あははっ

酷いんじゃない
おいしいおい
おい

しゅ

それに伴って
レイさんはだんだん
本当に人間らしく
なっていくた

あははははは
おもしろい
おもしろい

カハハハハハ

カハ

おもしろい
おもしろい





くくく
顔が真っ赤
じゃのう

まるで赤子の
ようじゃな



俺にも
そんな日
があるの



あー
やばい
少し酔っ
きたかも
今日は珍しく
よく飲むのう



げっ!とんだ
老人じゃん!

もうあと
200年くらいは
生きれるかのう



じゃが我輩
人間換算でいうと
もう300年くらいは
生きておるしのう

子供扱い
しないで!



吸血鬼って凄いな
そんなのもう俺
骨になってる頃だ

あれっ
なんかじゃろ
何か今腹の辺りが
チクっとしたのう

生ハム食べすぎ
なんじゃない?
塩分の取りすぎは
吸血鬼にもきつと
よくないよ!



薫くんが...



ちよつと俺
お手洗いに
行ってくる！

カク

フラフラ
しておるが
大丈夫かえ？

えへへへ
へーきへーき

カク



薫くんちよいと
飲みすぎなんじゃ
ないかえ？

ほら言わん
こっちゃんない…

あはは
ごめんごめん

キャッ★



つと、
わっ！

薫くん？
危ない！



近くで見ると
紅くて宝石の
ルビーみたい！

わあ凄いい！
綺麗な目だね

もっとよく
見せて！

おまなな

薫くん……
近い……

いつもより
胸の奥が騒がしい

これは何という
感情だろう

まだ知らない感情

その日我輩は
生まれて初めて
人間とキスをした

この子を壊して
しまわぬように
触れるだけの
優しいキスを

胸の中
にぐるぐる
廻る

この感情にしっくり
くる言葉を我輩は
まだ知らない

心臓がドクドク
波打っている

薫くんの言う通り
少し生ハムは
控えようか

あの夜から
薫くんは会って
くれなくなった



どことなく避けられて
いるような気さえする

出会ったときのように
また傷つけてしまった
のではないかと
心配している



初めて会ったとき
薫くんは好き同士では
ないから嫌だと言った



るん...

我輩は薫くんを
人間として好きだし
薫くんも我輩を
嫌ってないか
見えないか
嫌な感じがした
のが



我輩の思い上がり
だろうか

薫くんの体温や
唇に触れた感覚が
忘れられない



あんなに近く触れ合った
たった一人の人間に抱く
この気持ちは何という
名前なんじゃ...

薫くん



あの日
レイさんと
キスをした

触れるだけの
優しいキスだった

次に会ったとき
この感情は何かと
聞かれたら俺は
きつと答えられない

俺は女の子が好きだし
男なんかゲロゲロだし

だって
俺自身も
分からない

それでもレイさんと
会っているときは
楽しくて不思議と
嫌じゃないと思えた

なによりあの表情と
唇に触れた感覚と
体温が忘れられない

少し温度の低い
吸血鬼の体温

耳に残る
優しい低い声

次に会ったとき
俺はどんな顔を
したらいい？



彼は魔物で吸血鬼

俺は人間で神父

決して
交わってはならない

住む世界も
生きる時間も
何もかも違うから

交わっては
ならないんだ

こんばんは
もうすつかり
冬じゃのう

薫くん
起きて
おるかえ？

話したいことが
あるのじゃが
出てこずとも
よいから

もし起きて
おるのなら
ノックを一回
しておくれ

ありがとう

薫くんや……
すまなかった

じゃが
正直に言う
と
我輩は何が
悪かったの
か
分かってい
ない

分かって
いないから
こそ
罪を感じる

ただ薫くんが
嫌がることを
繰り返してしま
った
と
情けないこと
だけ
分
か
る
ん
じ
ゃ

我輩薫くん
に
褒められて
おった
浮
か
れ
て
お
っ
た

人間には
到底なれ
ない
の
に
は
ず
も
い

この気持ち
が
何
な
の
か
分
か
ら
な
い
ま
ま
じ
ゃ
が
い

来る日も来る日も
薫くんのことばかり
考
え
て
い
た
よ

薫くんに出会って
いろんな感情を
教えてもらった

我輩少しでも人間に
近づけた気がするよ

ありがとう

だが少し
薫くんに頼りすぎて
しまったようじゃのう

この感情は
自分で考えて答えを
見つけることに
しようと思うんじゃ

なんとなく
分かるよ
きつと

合わない方が
いいんじやろう……？

魔物の我輩とは
人間の薫くんは



勝手なことばかり言って

薫くん怒ってないのかえ？

最初から怒ってなんかないよ

やはりまだまだ人間の感情は理解出来ないのう……

今回のこれは人間にもそう簡単に分かる感情じゃないんだよ

俺にだって分からないだよ

薫くんにも分からないことがあるんじゃないかな

本当は分かっていたけど理解したくはなかったんだよ

理解したらどうしようもないんだよそれでも知りたいの？

いいよ教えてあげる

……知りたい

でもこれは一番難しい感情だよ



どんな
感じなの？

胸のあたりが
なんだか複雑で
苦しいんじゃない

でも薫くんを
見たら嬉しくて
ドキドキするし
おかしいんじゃないよ

そっか
ありがとう
教えてくれて

我輩なにかの
病気なんじゃないか

あのね、それ
俺も同じなんだ

胸が張り裂けそうに
痛くて苦しいんだ

薫くん！？
大丈夫なのかや？
すぐに医者に

全然
大丈夫なんか
じゃないよ！



薫くん

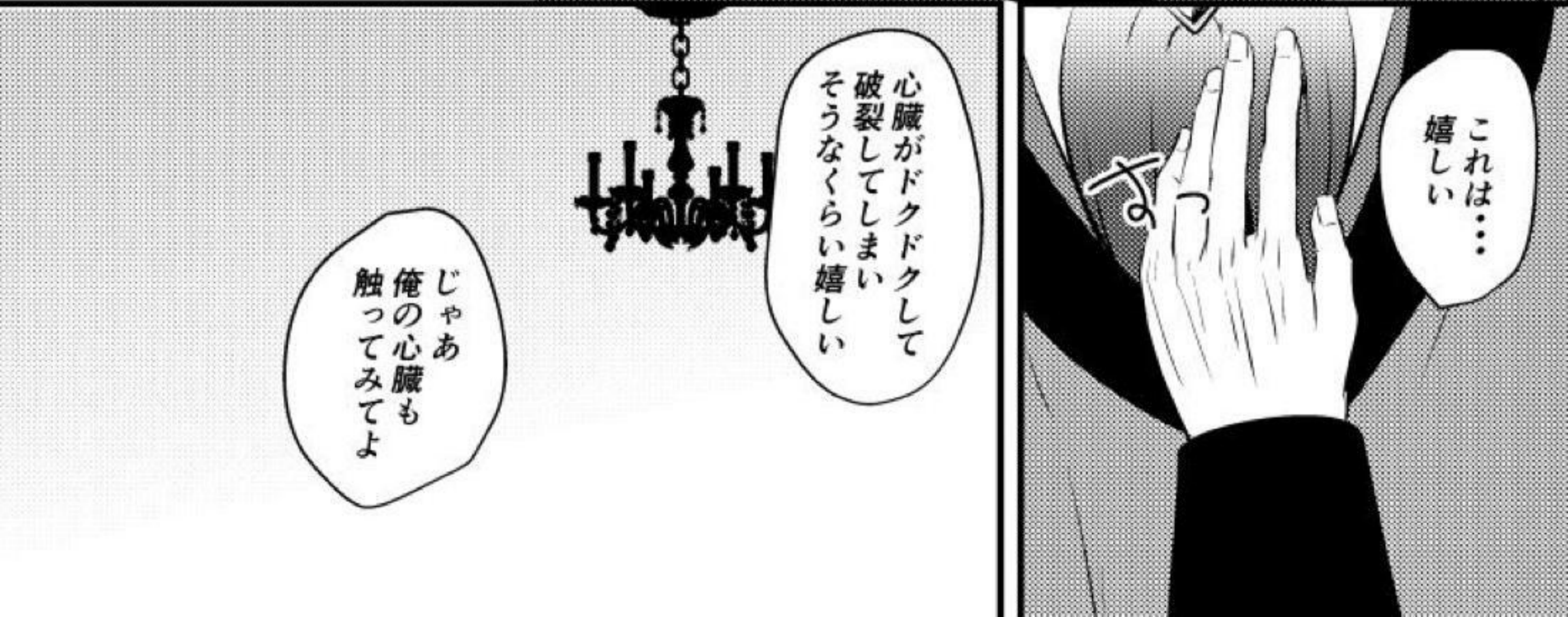
がしっ

じゃが



ねえ、レイさん
今どんな気持ち？

すっ♡



じゃあ
俺の心臓も
触ってみてよ

心臓がドクドクして
破裂してしまい
そうなくらい嬉しい

これは…
嬉しい

すっ♡

薫くんも
心拍数が
高くて
ドクドクしてる

薫くんの心臓から
身体中に人間の
血が巡って
おるのが
分かるよ

我輩も薫くんも
おかしいんだよ

ううん
何にもおかしく
ないんだよ

あのね、これが
あのととき理解
出来なかった

愛なんだと思う

そうか……
これが愛……
随分と難解で
苦しいもんじゃないかな

どうしようもなく
愛おしいって
気持ち

もっと
触りたいって
思う自然な気持ち

ごめんね
実は俺も
初めてなんだ

止まらないでしょ
この気持ちは
自分じゃもう
制御出来ないの

俺とレイさんは
お互いを
愛しちゃったんだよ

同じ気持ち
なのかや？

同じ気持ちだよ

俺のこと
まるで女の子を
扱おうみたいにな
優しくする……

でも、そっか
俺今から
レイさんに

薫くん、
本当の
のかえ？

うん

前に
こうは
いう

好きな人
じゃないと
言いたいで
しょ

レイさん
ならいいよ



それに、愛のこと
知りたいんでしょ？

知りたい…

だったら
あの日のキスの
続きをしてよ

そしたら
分かるよ



俺がレイさんに
教えられるのは
これで最後だよ

七っ



薫くん
可愛い

んっ

んっ



そういう顔
我輩以外にしちゃ
だめじゃよ

しないよ…
こんなの
レイさんだけ
だってば

薫くん
腰あげて

ドキドキしてる

寒くないかえ？

平気だよ

我輩も
緊張しておる

ほんに
綺麗じゃな

肌も体温も
心も全部

我輩が触れたら
汚してしまいい、
そうなくらい、
綺麗じゃよ





やめてよ

俺は男
なんだから
綺麗とかないし
…恥ずかしい



お願い…

優しくして



薫くん、
ならば

とびきり
優しくすると
誓おう



あと俺…
初めてだから

初めて、と
言うのは…



俺、仮にも
神父だし…
そういうの禁忌

だから、その
今まで誰にも
触られたこと
ない…から



ちくつと
するぞい
少し我慢
しておくれ

あっ痛っ

薫くん

なんで……?
レイさん

かぶいっ

血は
飲めない
って

少し舐めた
だけじゃよ



痛い思いを
させて悪かった
じゃがこれ以上の
痛みはもうないよ

吸血鬼の牙には
痛みを抑える効果
があるんじゃない

薫くんには
これ以上の怖
い思いはさせ
たくないん
じゃよ

薫くんなら
嫌われたら
我輩に
なってしまう



じきに
気持ちよくなる
はずじゃから

まあ
これをすると
我輩も少しあてられ
ちやうんじゃけども

あてられる？



我輩血は苦手
じゃからそんな
吸ってないから
大丈夫だとは
思うけども

カラダもなんか
じわじわ……



その、
言いくいんじゃが
吸血鬼の牙には
媚薬みたいな成分が
含まれておっての

あ……、
なんか頭
クラクラする



熱くなって……

もし何か変に
なったらすぐに



レイさん
あつかい







ばかっ
無理なんか
してないか

薫くん、
無理させて
おる...よな



一緒なら
なれたら

俺はずっと
レイさんと



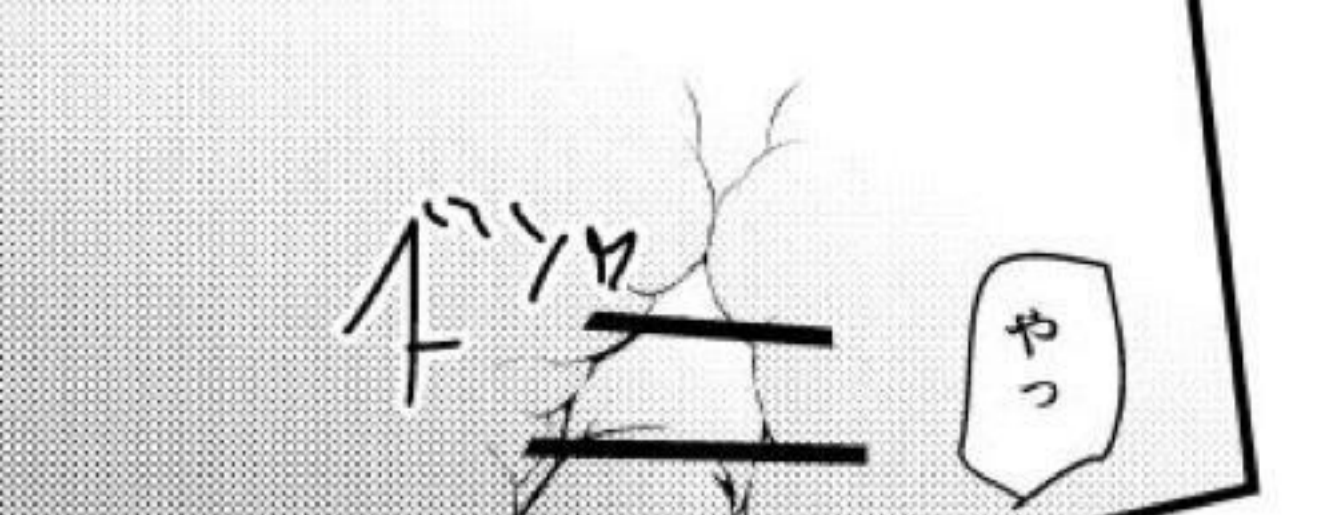
我輩は
あと何回この子に



って
愛しておるよ



愛していると
言えるだろう





我輩の心を
温めてくれた
唯一の人間

己の血で
壊さないようにと、
大切にしたいけれど

っく……っ



歯止めが
きかなくなりそう

恐ろしくもなる

う……っ
っひっく

薰くん……
ごめん
大丈夫かや？





この子から
目が離せない

この子の表情に
目が離せない

あははっ
しちゃったね

幸せだよ

俺も愛してる
レイさんのこと

薫くん……



乾いた心に
温かいついていく
広がっていく

こんな気持ちに
なったのは
生まれて初めてで

これが
幸せなのだ
教えてくれた

潤って
満たされて
何もかもが
美しく思える

愛してる

覚えたての
その言葉を
永遠に忘れて
しまわないように
何度も口ずさんだ

ずっとずっと
薫くんを
愛している

時なんか
止まってしまえば
いいのに





君に出会って沢山の事を知った。

己の感情にすら気付けなかったこの私が
たった一人の人間に心奪われ恋をした。


そして、
感情を知れば知るほどに
愛すれば愛するほどに
1つの願いが生まれた。

「人間になりたい」

この願いは叶うことはないのだろう。

それでも
この身に流れる血が違えども
その一瞬でも交わりたいと願った。

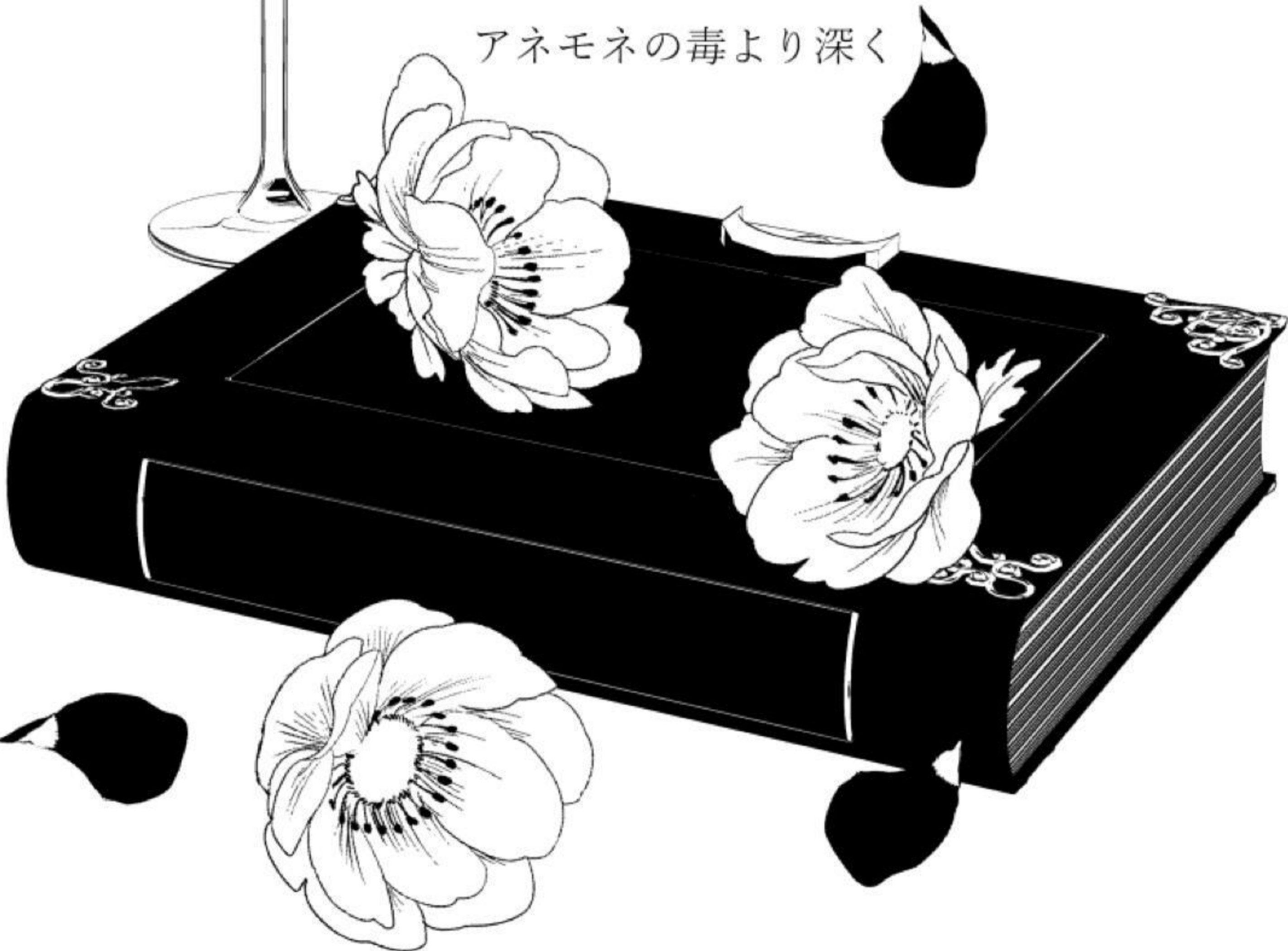
まるで交差する時の中で
出会えた愛しき人



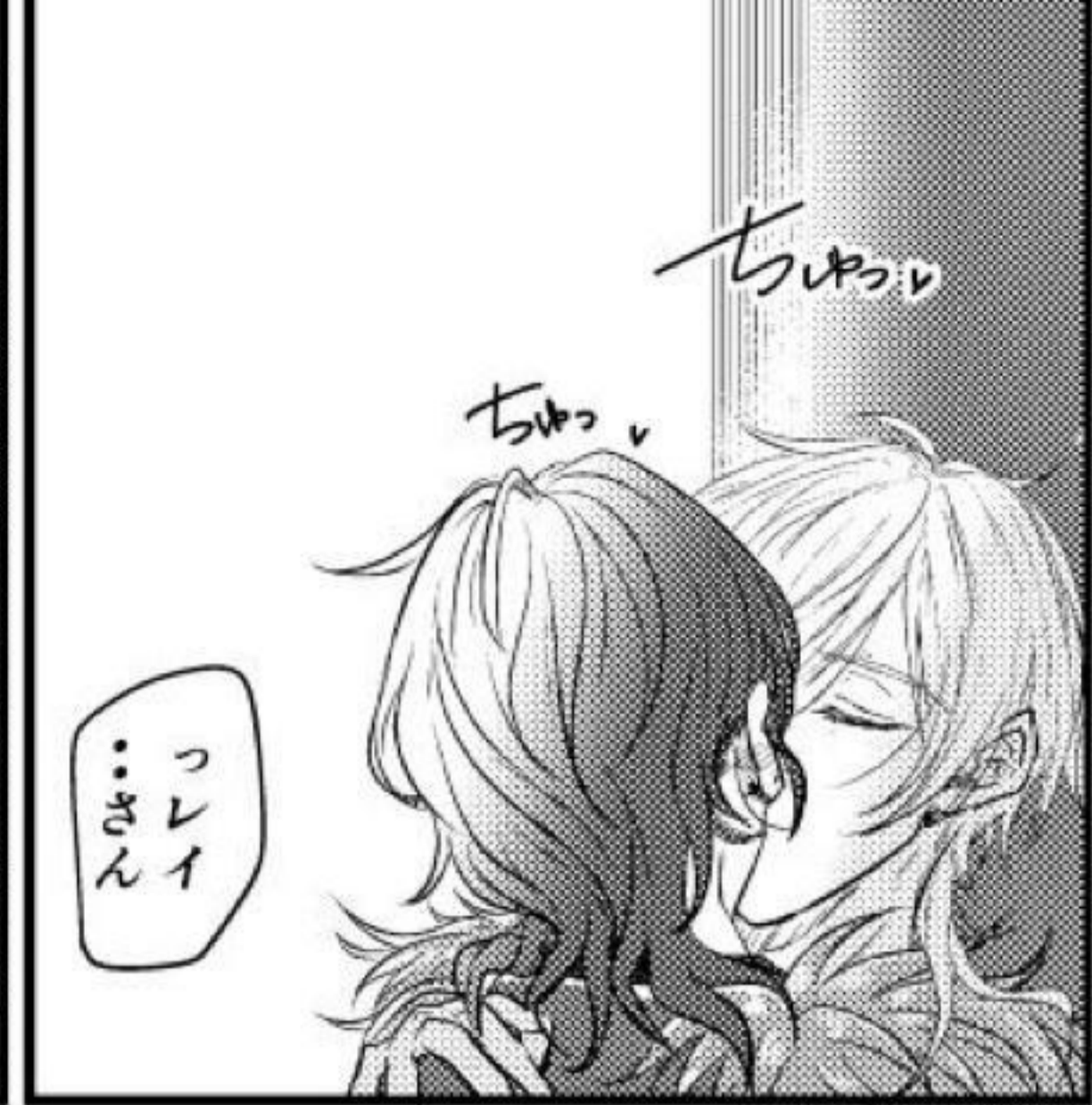


~CROSS~ sharp.

アネモネの毒より深く



アネモネの花言葉=あなたを愛します
ギリシャ語=「風」



っレイ
…さん

ちゅっ♡

ちゅっ♡

薫くん

レイさん



ねえ
レイさん。
俺たち、

少し会うのを
控えようか。



最近村の人に
俺たちのことを
見たって噂が
流れててさ

いきなり
ごめんね
別に嫌いになった
とかじゃないよ



どうして？



だから、
……ね。

俺は人間で
彼は魔物で吸血鬼



俺と
レイさんは
ほら、

フッ



次にまた
会うのはさ

ピリ

6日後……でも
いい……かな？

……ああ

当たり前のように
この時代は
吸血鬼を含む
魔物は恐ろしいものと
認知されていた

あの日思いが
通じ合った後も
俺たちはこっそり
隠れて会わないと
いけなかった

分かった



ありがとう
レイさん

人と悪魔が交わるなど
到底考えられず

そんな時代に
俺たちは偶然にも出逢い
そして愛し合った



神を信仰する
この小さな国で
魔物は一方的な悪とされ

天災や伝染病、
この時代の科学では
証明できないような
得体の知れない
恐ろしいこと、

つまり人間の理解の
越えた現象はすべて
魔物の罪にして
ヒトは今日生きている

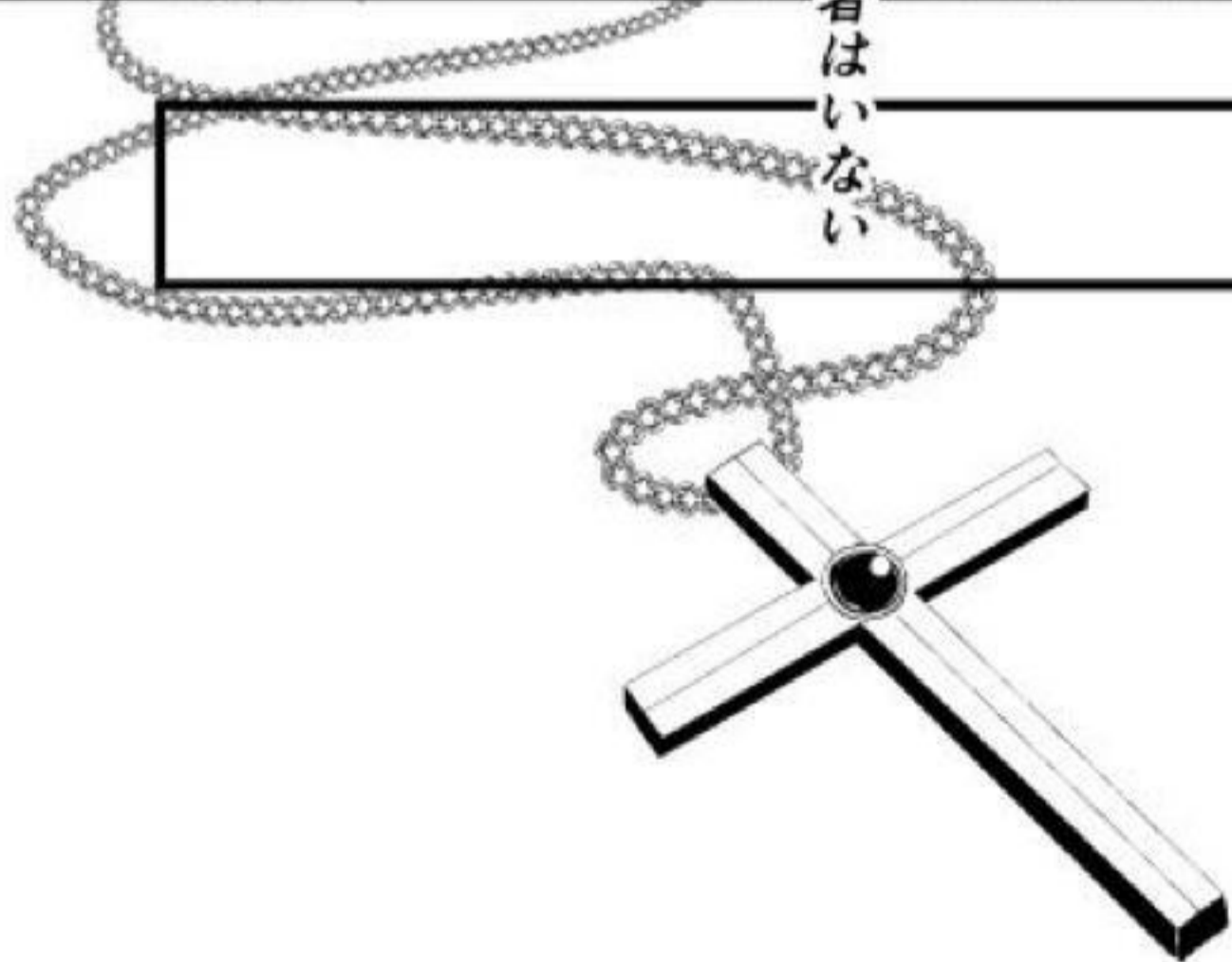


これではどちらが
悪魔なのか分からない

俺たちを祝福する者はいない



ねえ、
こんなこと
聞くのもあれだけど



悪魔たちは人間に
身に覚えのない罪を
擦り付けられて
悔しくないの？

ううむ、
周りにはそう思う
悪魔もおるのう

人間は
弱く脆い

己の手に
負えなくなると
神様とかいう何か
すがって願う

信じることで
また強くなれる
のじゃろう

悪く言っ
てるのではなく
だからこそ
愛おしいと思う

まあ
なんせ
我輩たち
こちら側に
そういった
ことは

到底
理解できん
感情だからのう…

そういうの、神に
願ったりしないの？

したことがないし、
することもなからう

望めば何でも
出来ちゃうから
こそその発想だね

俺からしたら
それは羨ましい
くらいだ…

ん？何か
言ったかや？

ううん、
何でもないよ

ネエ、

最近一層
人間への理解が
深まったんじゃない？

そうかや？
まだまだ人間には
ほど遠いがのう…

そんなレイさんに
俺が名前をあげよう

名前…？

東の文字
なんだけど

雨の下に
令と書いて、零

漢字には一つ一つ
意味があるんだって

令って文字には
立派だとか
清らかで美しいとか
神様のお告げって
意味があるみたい

それに、
零れるなんて
読み方もするから



零れるほどの
愛をもった人

なんだか
それっぽいでしょ
零さん



生まれて初めて己に意味を

零……か、



零れるほどの……

愛を持った人



えっ……

なるほど、では

俺は、薫るって
漢字なのかな

んごうだろな



それでは
薫くんは？

あはは



この花のように

よい薫りが
する、と



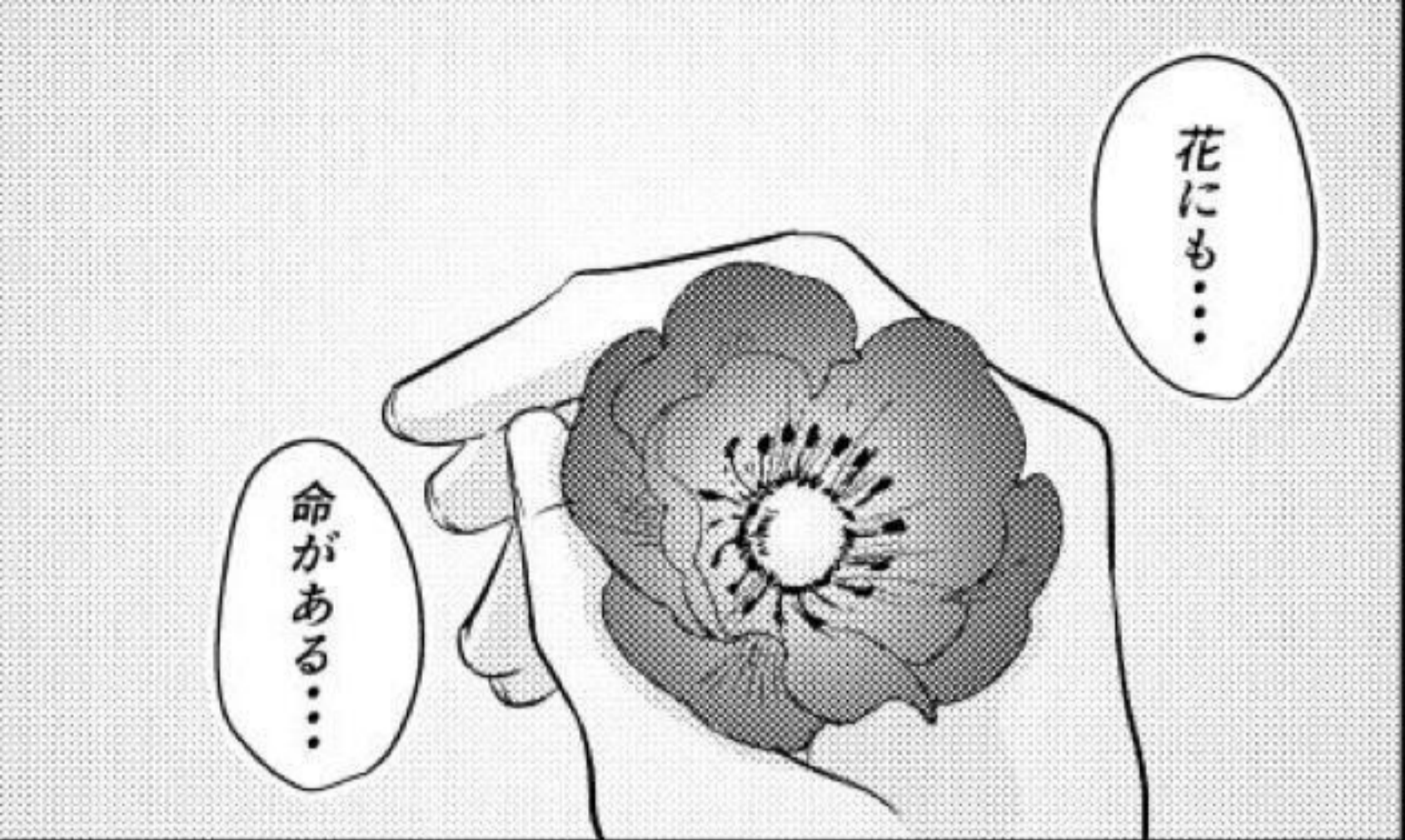
いらないっ

なっ、
なんでじゃ？



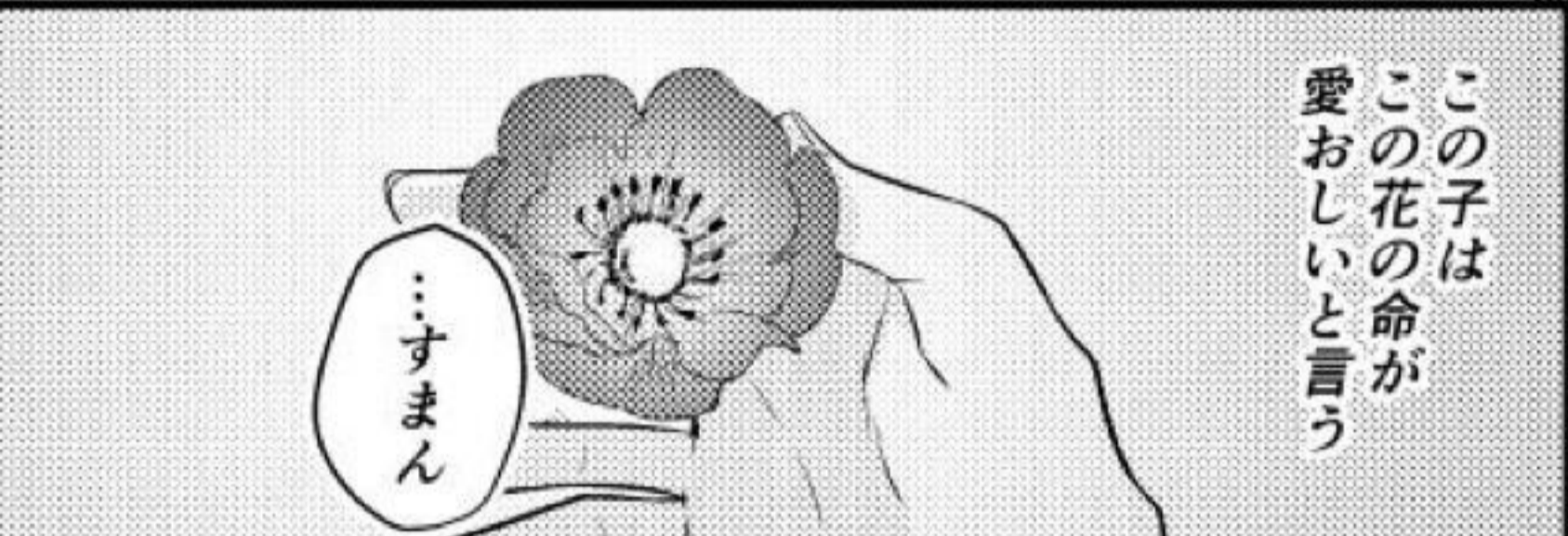
無意味な殺生は嫌い

花にも命がある



花にも…

命がある…



この子は
この花の命が
愛おしいと言う

…すまん

己に流れる血が疎ましい



我輩は…

なんてことを



…怒っと
らんのかや？

大丈夫
花も強いから
植えたら
また命が続くよ



やはり我輩には

ぷっ…
クスクス
根っこから
抜くなんて…

こうして土に返してあげれば

きつとまた命は続く

零さん、鼻に土ついてるよ

出来たっ！
ってあはは

もーほんとに子供みたいだなあ

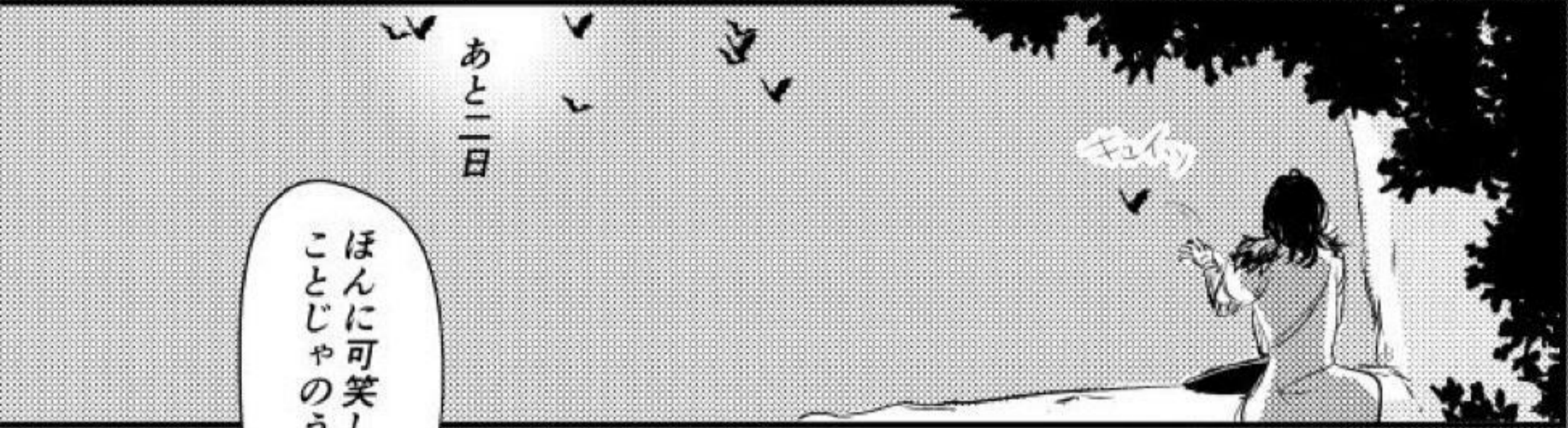
ああこの子の

表情二つ二つに

我輩の心は
こどもも簡単に乱される

薫くんも顔に土ついてるんじゃけどもえっ、嘘とってー！

あははは
零さん
おははは



あんなに綺麗で
静かな場所なんて
初めてだよ

……
そうじゃな

綺麗……
じゃのう

俺のお気に入りの
場所なんだ。
人もいなくて
静かでいいでしょ！
ああ、
そうじゃのう
ほんに、

綺麗じゃ

残酷なくらい

きつと本当に
薫くんの
言うようにここは

ちやんさん

清く美しい湖なのだろうー

あんなに綺麗で
静かな場所なんて
初めてだよ

心が綺麗になれる
気がするから
大好きなんだ

令って漢字には
清らかって意味も
あるんだよ



分かってはいたが

分かってはいた



えっ?
零さん!

やはり、

我輩は

拒絶される

ねえ、
大丈夫?

ほんとに聖水とか
駄目なんだね...

大丈夫じゃよ
治癒力は
人間の数倍は
あるからのう

でも
痛そう...

多少の
痛みはあるが
この程度の傷
心配無用

もう流血は
止まったし
半日もすれば
綺麗さっぱり
治ろう

そっか...
でも気になるから、
ちよっと手貸して?

あっ薰くん
血が...
汚れてしまうぞい

汚くなんかないよ
それに魔物も
血が赤いんだね

テレとるんじや?

うん、
もういいよ

これは……

キユッ↓



ごめんね今日にかぎってお薬持ってなくて

あっそうだ、

いたいなのいたいのとんでけー！

ちゅっ↓



薬はこれで我慢してね

ニムッ

なんじゃないそれは……

（アハハ）

十よんでため息マ……

東洋のおまじない？

（アハハ）

呪いかや？

？

違うよーもおー！確かに漢字は同じだけど！

（アハハ）



今日もご苦労
じゃったのう

あの子に
お礼が
したいのう



ここ俺の
お気に入りなんだ
綺麗でしょ

綺麗
そうだな
花がいい

ならばあの
白い花がいい



何をしたら喜ぶ？
何を与えたら
あの子の笑顔が



喜んで……
くれるだろうか



無意味な
殺生は嫌い……

悪魔が
聞いて呆れる

お礼がしたい
などと言って

本音はただ
薫くんには、

ふんふん

会いたいだなんて

ふん

いかんのう……

離れていても
考えることは
お主のことばかり

ふん

ほんに、よく効く
薬じゃて、薫くん

ちゅっ

花を……
摘みに……

ふん

行こう……

ふん



ふざけるな!

お前が悪魔と取引してる
ところをみた奴が他にも沢山いるんだよ!

そんなこと
神父が許されると
思っているのか!



可笑しいと
思ったんだ!

村の者も
赤い斑点を
肌に残して
次々とあの世へ
逝っちゃもうし

雨も降らなきゃ
作物も採れねえ!

それも全部あの
吸血鬼の仕業じゃ
ないのか!

そうだ、
そうに違いない!



おい吸血鬼
狩りに行くぞ!

お前、さては
あの悪魔に
憑かれて

もて遊ばれている
んじゃないか?

歯あ
食いしばれ!

違っ!



やめて!
零さんはそこらの
魔物とは違う!

レイさん
だと...?

頭を冷やせ!
おい縄で縛れ!

あの湖まで
連れてこい!



悪魔よ
この神父から
出ていけ!

カハッ...
はあっ、はあっ

どうだ、少しは
目を覚ましたか!



げほっげほっ

はあっはあっ...

いいか、
これで懲りたら
お前はもう
今後一切
あの悪魔とは

ちがっ...う
零さんは
...悪くない



まだ、言うか

おいもう
やめねえか、
死んじまう!

うるせえ!
村の奴等も
そうやって
どんどん
死んじまって
んじゃねえか!

こうでもしねえと
次は俺たちも!



ああ、本当に...
人は弱い生き物だ

哀しくなるくらい
醜くて愚かで

これじゃどちらが
悪魔なんだろう

はしゃっ
づいぞよ

この血が己にも
流れていると思うと
反吐が出る



花一つ尊い命と
愛でることの出来る
悪魔のほうか



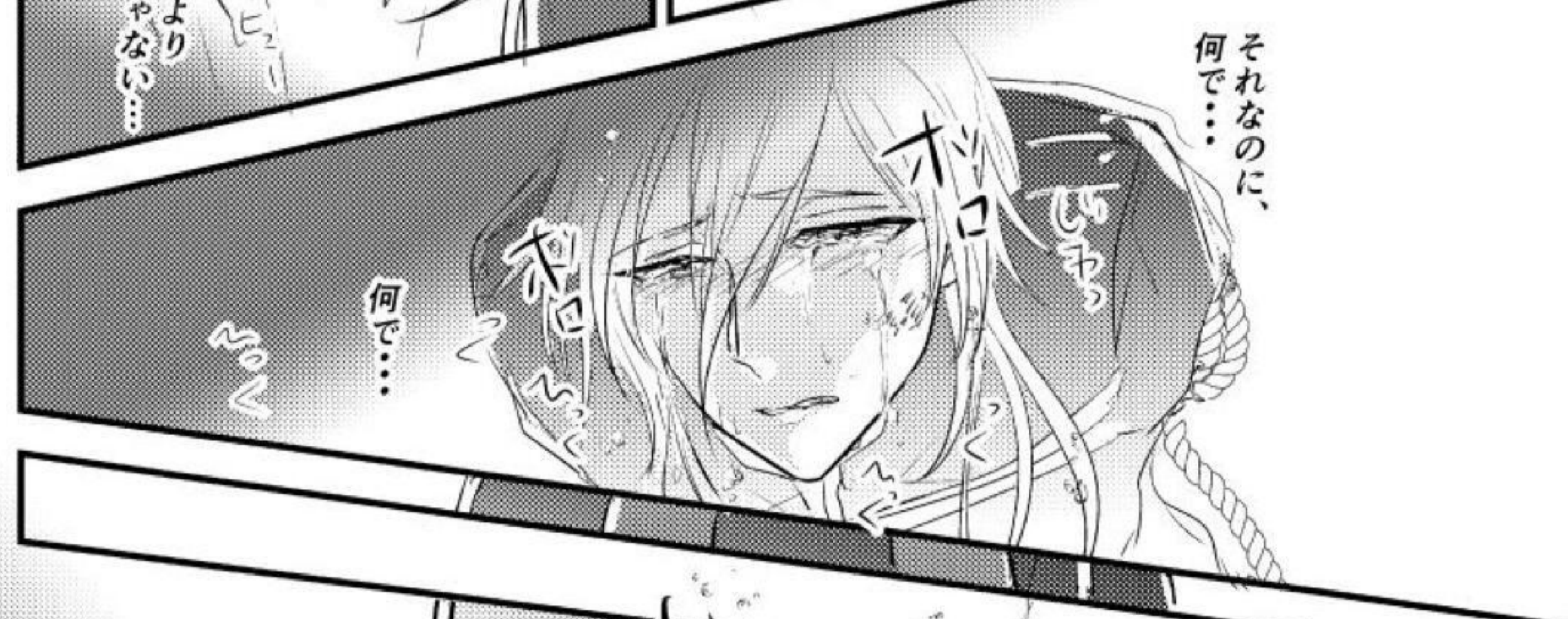
ねえ神様
俺は悔しいよ

つおれ

だってさ、
可哀しいよ



よっぽど人間より
人間らしいじゃないか



それなのに、
何で...

何で...

も



おい

テメェら
薫くんには





薫……！

聞かぬ

なほん！！



返事をしたいのに
もっと声を聴きたいのに

薫薫！！

零さん……

ゴボゴボ

ブクブクブク

零さんの声が
聞こえる

もう息が
続かな



タタタ

カッ



何としてでも
絶対にお前だけは

薫!!!

どこだ
薫!!!

クソッ!!
長居は出来ねえ



はあっ…
はあっ…はあっ



薫くん…
っ、はあ…はあ
無事、か…?

薫くん…?

薫くん？

息をしていない

くそっ！
くそっ！！

目を覚ませ
薫くん！

死ぬんじやねえ！
起きろ！

起きろ薫！！

ほらだから
言っただろ

薫くん！！
薫くん！！

目に流れる血は
この子を不幸にしかならないと

愛したところで

本気になればなるほど

人間は脆い

人間の命は儚い

こうして馬鹿を見る

一瞬で散る

時が止まったように感じた

ほら薫くん

やっぱり

神様なんかいないんじゃよ





薫くんっ？

薫くん！！
薫くん！！



カハツカハツ

ごぼっ、
げぼっ！



お母さんに
はあっ……

カハツカハツ
はあー……
はあ、俺



会えたんっ
……だけどね、
……っはあ、

追い返され
ちゃった……



けほっ
けほっ……

あの時以上に
心の臓が苦しい



薫くん……



かつ薫くんには
まだ早すぎるんじゃない

あはは……
零さんにも
怒られちゃった……





ごめんね

ぐいん



零さん

ありがとう
助けてくれて...

ぎゅっ



俺...

生きてるよ



薫くんが
無事で...
生きててくれて

本当に、
よかった...

ぎゅっ

ねえ、
こんなボロボロに
なってまで俺のこと
助けてくれたんだ

アハハハハ
解もボロボロに
アハハハハ...

アハハハハ
開いたさあ...
ちよと...

気付いたら
体が勝手に
動いていたんだ

全身火傷まみれに
なっちゃって...

痛かったでしょ
ごめんね

いいんじゃない

よくないよ!
そんな無茶して!

俺がいなくなった
後どうすんのさ

ピリッ

しゅんしゅん

薫くんがいなく
なったら

そしたら
我輩はっ

きつと
あつ

あき

そっ



それは
駄目だよ



……うん。

それは
あまりにも
酷じゃのう……

しばらく
こうしても
いいかや

うん。



はは……



我輩生まれて
初めて神に
願ったんじや



のう、薰くん

なあに

この子の命が
続きますようにと

神が願いを
叶える為に
相応の対価を
求めるならば

この心の臓を
捧げてもよいと…

お主が
生きてくれるなら、
それでいいと

それでいいと

この吸血鬼が
滑稽にも
神にすぎり

本気でそう
願ったんじゃよ



そのかわり
俺たちが信じる
神様は対価なんか
求めたりはしない

本当は人間は
分かっているんだよ。
それでも祈ることで
明日も強く生きれる

願いは祈り、
縋るものではない

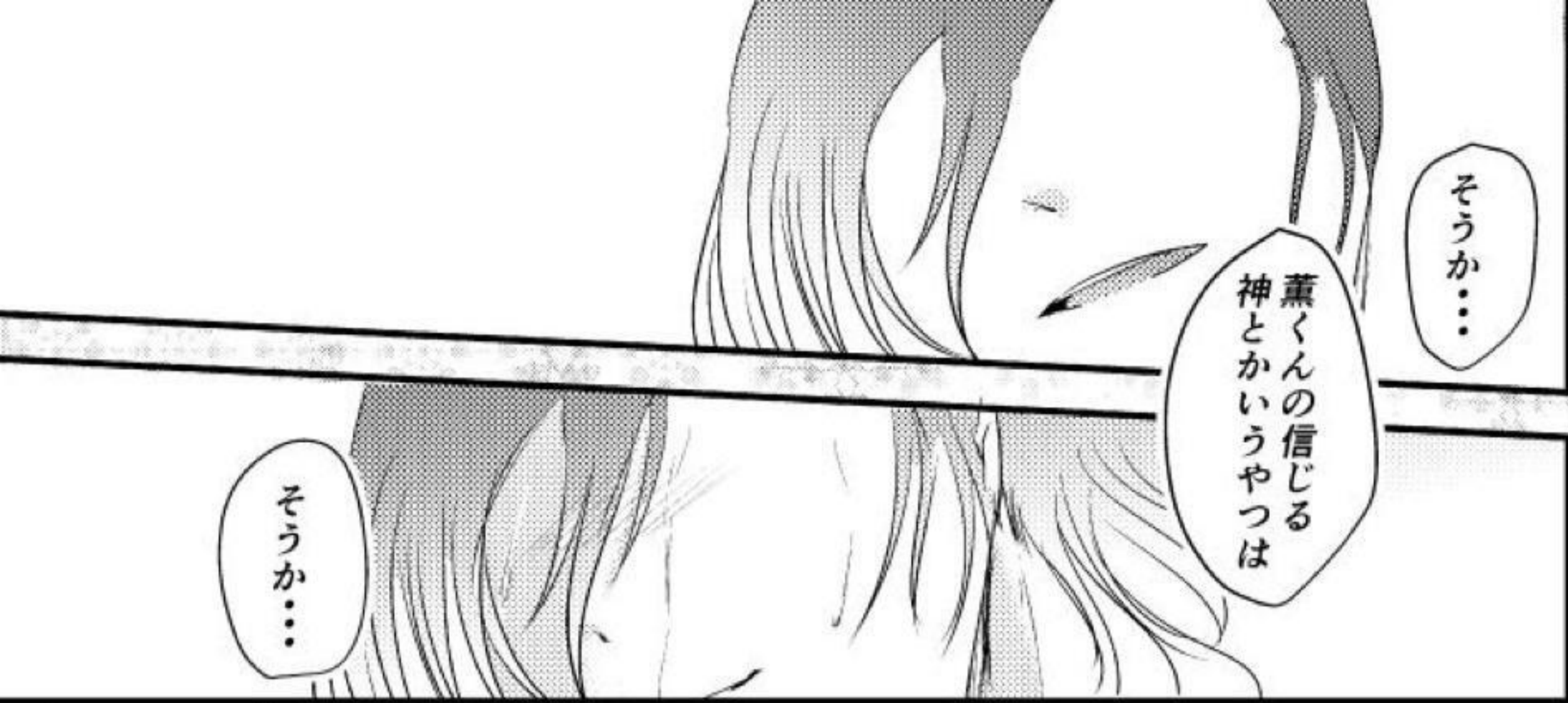
神様ってのは
ちよつと意地悪なんだ
願いは必ず叶えて
くれる訳じゃない

馬鹿だなあ…
零さんは

その神のご加護を
受けるのは皆
等しく平等

もちろん
魔物もね





そうか……

薫くんの信じる
神とかいうやつは

そうか……

だから
吸血鬼は、人間に

我輩は、薫くんに

何度も恋焦がれるのか



！
そういえば、
その花は…？



これは…その
薫くんに渡そうと
思ったんじゃないか



こんな、しおしおに
なってしまうたのう



摘んできたの？

う…まあ、
少しだけ、な

ふーん。花束で
持ってくる
また俺が怒ると
思ったんだ。

ん、まあ…の

ふふっ
む、何で
笑うんじゃ



やっぱり
零さんは

根っ子
技師



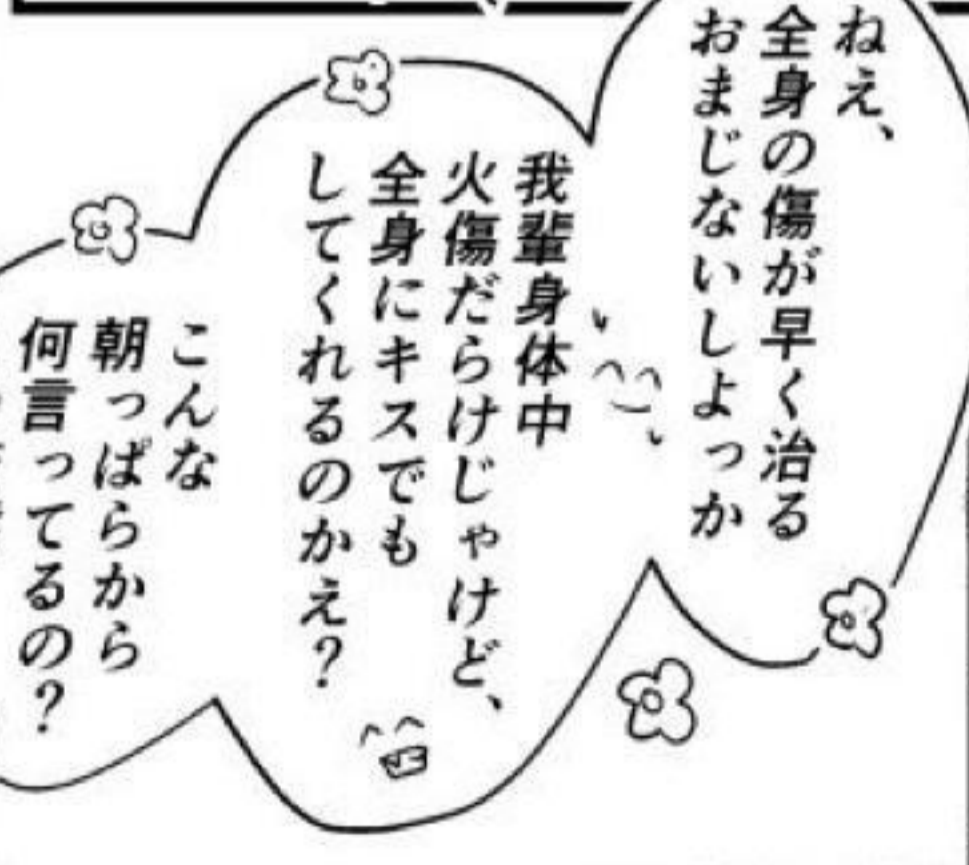
優しい
悪魔だ



いい匂いだね



ああ…
そうじゃのう



ねえ、
全身の傷が早く治る
おまじないしよっか

我輩身体中
火傷だらけじゃけど、
全身にキスでも
してくれるのかえ？

こんな
朝っぱらから
何言ってるの？
この変態！



ほらっ、



アハハ



薫くん…

ま…



よく効く薬じゃて

ああ、ほんに

ニキは、
いたいのいたいの
とんでけ…か



お薬は口から
飲むものでしょう？

君の言うように人間は時に
悪魔より恐ろしいのかもしれない。
愚かで醜く、脆い。

それでも私たちは
ひとつの生命として
強く逞しく生きているその命が
ひどく輝かしいものに見え憧れる。

君が私に名前を与えてくれたとき、
少し人間に近づけたような気がした。
だが清らかで美しいという言葉は
君にこそふさわしい。

君が居なくなったあと私は
人間と共存し、毎日祈っていた。
おかげで今では村の子供からは
神父のおじいちゃんなどと呼ばれている。

あの湖の周りは、君の愛した花で
溢れかえっている。
君が愛したように、私も花を愛し
時々手入れもしている。

花は咲いて、枯れて、また芽を出す。
まるで輪廻のように。

私も、そうでありたいと祈り続けた。

このユリの花束を君に渡そう。

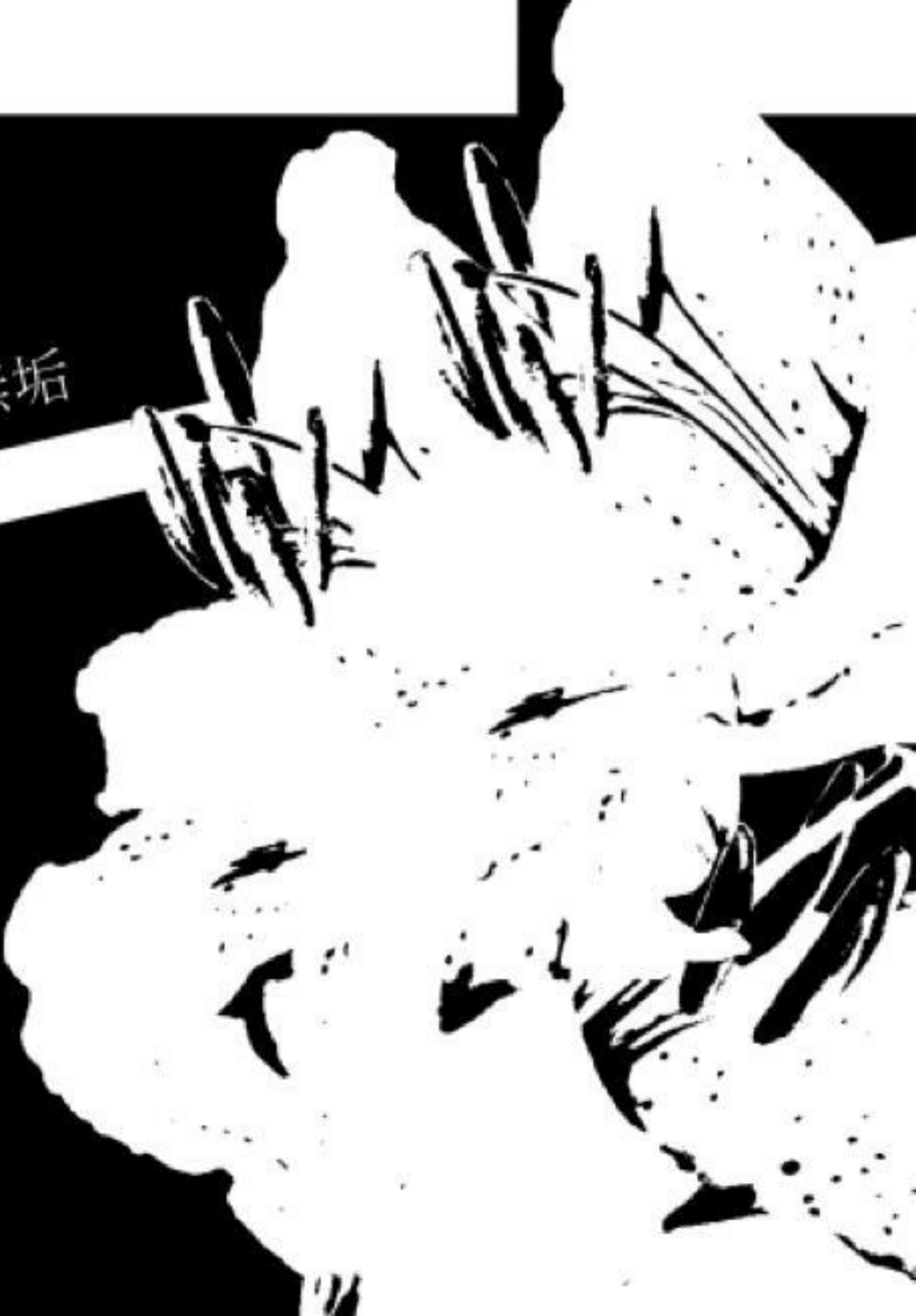
愛している。

Rei

レイさん
人間に
なれたんだね

ユリの花言葉＝純粹、無垢

END





祈ります。

吸血鬼と神父様が今度こそ

同じ時を生き、愛し合って笑っていただけることを。

どうか末永く、永遠に幸せでありますように。

cross.

Ten



～CROSS～

・ユリの花束を君に

～CROSS～sharp.

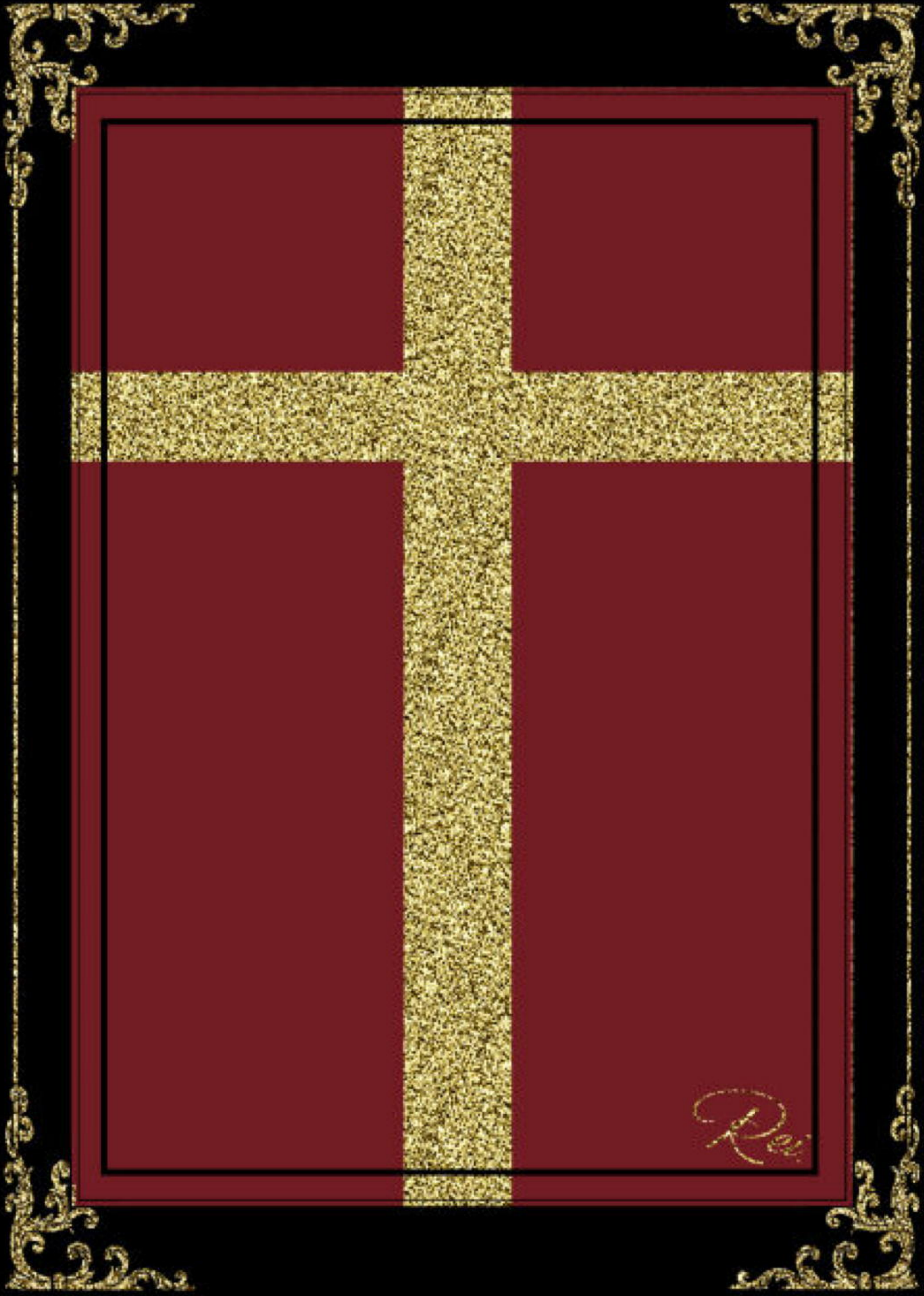
・アネモネの毒より深く

2019.11.30 再発行20.02.23

aroma by.Ten
Twitter @ten10aroma
aromashushu@gmail.com
栄光印刷

※ネットへの無断転載や複製、
フリマアプリ、オークション出品等、禁止します。





Pet.